

●円滑に避難を行うために「マイ・タイムライン」

台風などの風水害やそれに伴う土砂災害はあらかじめ予測のできる災害です。災害から命を守るために、あなたやあなたの家族が状況に応じた行動ができるよう、事前に確認しておきましょう。

かなり大型の台風みたいだ。
うちは川が近くだから心配だな。

台風に備えて、
事前にやるべきことを
確認しておこう。

このままじゃ、
台風が直撃だな。
避難所への避難も
考えなくては。

「警戒レベル3 高齢者等避難」が
発令された。
まだ雨は強く降っていないし、
うちはおばあちゃんもいるから、
今のうちに避難を開始しよう！

無事避難できてよかった！
市内では川のはん濫や土砂災害が
発生しているみたいだな。

台風発生

台風接近

台風直撃

行動のポイント

情報の収集

●テレビ等で天気予報を確認
●インターネットで気象情報を収集

身の回りの確認

●ハザードマップで自宅等の災害リスクや、
避難所、避難経路を確認
●防災グッズや家族の必要な物を準備(不
足があれば買い出しへ)
●家族全員の今後の予定を確認(遠出する
予定がある場合はキャンセルも検討)

安全確保、避難準備

●非常持出品の準備
●自宅の浸水しそうな所には土のうを設置
●家の周りの側溝の掃除
●家の周りの風で飛ばされそうなものを片
付ける
●1階が浸水する恐れがある場合は家財を
2階に上げる
●携帯電話の充電

避難

●テレビ、インターネットで河川の水位情報
や気象情報に注意
●市からの避難情報に注意
●浸水や土砂災害が想定されない場所の
避難所に避難を開始
●夜間ではなく明るいうちに避難を開始

避難所

●避難所についてからも、ラジオや携帯電
話から情報を収集
●雨が止んだからといってすぐに帰宅する
のではなく、周囲や川の水位の情報を注意

●避難に関する情報

甲州市では災害が発生するおそれがある場合には、防災無線等により、避難情報を発令します。それぞれの内容を十分に理解し、災害時には正しい行動をとることが大切です。危険を感じた場合は避難情報が発令される前に避難する、避難所への避難が難しいと判断する場合は、屋内での安全確保に切り替えるなど、自分の判断で避難することが大切です。

避難情報	発令時の状況	住民に求める行動
警戒 レベル 1	大雨の数日～約1日前	●災害への心構えを高める
警戒 レベル 2	大雨の半日～数時間前	●ハザードマップ等で避難行動を確認
警戒 レベル 3 高齢者等避難	●要配慮者等、特に避難行動に時間を要する者が避難行動を開始しなければならない段階であり、人的被害の発生する可能性が高まった状況	●要配慮者等、特に避難行動に時間を要する住民は、計画された避難場所への避難行動を開始(避難支援者は支援行動を開始) ●上記以外の住民は、家族等との連絡、非常用持出品の用意等、避難準備を開始
警戒 レベル 4 避難指示	●前兆現象の発生や、現在の切迫した状況から、人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断された状況 ●堤防の隣接地等、地域の特性等から人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断された状況 ●人的被害の発生した状況	●通常の避難行動ができる住民は、計画された避難場所等への避難行動を開始 ●いまだ避難していない住民は、直ちに避難行動に移るとともに、そのいとまがない場合は生命を守る最低限の行動
警戒 レベル 5 災害発生情報	●すでに災害が発生している状況	●危険な区域からまだ避難できていない住民は命を守るための最善の行動

●避難勧告等の発令基準

甲州市では 河川のはん濫による水害 や 大雨による土砂災害 の避難勧告等について、以下のように発令基準を定めています。

避難情報	河川のはん濫による 水害	大雨による 土砂災害
警戒 レベル 3 高齢者等避難	●洪水警報が発表されたとき	●大雨警報が発表されたとき ●土砂災害警戒区域等付近において前兆現象の発見があったとき
警戒 レベル 4 避難指示	●破堤につながるような漏水等を確認したとき ●河川管理施設の大規模漏水、亀裂等を確認したとき ●堤防の決壊・越水を確認したとき	●土砂災害警戒情報が発令されたとき ●近隣市町村において前兆現象の発見があったとき ●特別警報が発令されたとき ●近隣市町村において土砂災害が発生したとき ●近隣市町村において土砂移動現象、前兆現象の発見があったとき

●想定最大規模の降雨に対する避難の方法について

洪水、土砂災害時の避難方法は原則、災害の危険性のない場所へ避難する「**立ち退き避難(水平避難)**」です。浸水が想定される区域、土砂災害のおそれがある区域にお住まいの方は、危険性がない市指定の避難所に避難してください。

ただし、道路の冠水や雨が強く降っている状況で、**移動することにより命の危険があると判断する場合には、近隣の安全な場所**(頑強で高い建物や土砂災害のおそれのない標高の高い場所)※1への避難や、**屋内での安全確保(垂直避難)**※2を検討してください。

過去の災害では、避難途中で災害に巻き込まれ犠牲になられた方もいます。災害時には、自らの判断において避難行動を実施していただくことが原則です。お住まいの地域や自宅、学校、職場付近にどのような災害リスクがあるのかを把握しておくことが正しい避難行動につながります。

※1 近隣の安全な場所への避難

無理をして遠くへ行かず、近くのより高い建物などへ

※2 屋内安全確保

建物の2階や屋上へ

垂直避難

大雨や強風などにより、長距離を移動することがかえって危険になってしまうと判断する場合には、「**近隣の安全な場所**」へ避難することも選択肢となります。

近隣の安全な場所への避難も難しいと判断する場合には、最低限の避難行動として、その時点でいる建物内において、安全な部屋や屋上等へ移動し、安全を確保する「**屋内安全確保**」が必要になります。

具体的には、山や斜面から離れた部屋や、浸水深よりも高い2階以上の部屋への移動です。

ただし、迫っている災害によっては、建物の強度や高さの観点から安全を確保できない場合があること、浸水が長時間継続した場合、電気、ガス、上下水道等のライフライン機能の停止や、取り残される危険性があることに留意しなくてはなりません。

ハザードマップで
自宅等の安全を確認し
自らの判断において避難行動を

●想定浸水深に応じた避難行動

浸水深 0.5m未満の場合	- 避難が遅れた場合は、自宅上層階へ避難しましょう。 - ただし、浸水が長時間継続した場合や、孤立した場合の問題点について認識しておくことが必要です。
浸水深 0.5m～3.0mの場合	- 平屋住宅または集合住宅1階の住民は、1階床上浸水になり、避難が遅れると危険な状況に陥るため、避難情報だけでなく、出水時の水位情報等にも注意し、必ず避難所等の安全な場所に避難しましょう。 2階建て以上の住宅の住民は、浸水が始まってからの避難は水深0.5mでも非常に危険です。避難が遅れた場合は、無理をせず自宅2階等に避難しましょう。 - ただし、浸水が長時間継続した場合や、孤立した場合の問題点について認識しておくことが必要です。
浸水深 3.0m以上の場合	2階床面が浸水する2階建て住宅では、避難が遅れると危険な状況に陥るため、住民は避難情報だけでなく、出水時の水位情報等にも注意し、必ず避難所等の安全な場所に避難しましょう。 - 高い建物の住民でも、浸水深が深く、水が退くのに時間を要することが想定されるため、事前に避難所等の安全な場所に避難しましょう。

●避難する際の注意点

早めの避難行動を！

浸水深が深くなると、移動することが困難になります。

気象情報や河川の水位情報をもとに、身の危険を感じたら直ちに避難しましょう。

歩行が困難になる浸水深

成人男性 70cm
成人女性 50cm
子ども・高齢者 20cm

ドアが開かなくなる浸水深

成人男性 40cm
成人女性 35cm
子ども・高齢者 30cm

車が止まってしまう浸水深

車種によってはタイヤの半分くらいでエンジンがとまることもあります。

60cm

立ち退き避難の注意点

避難するときは、隣近所で声を掛け合い、**なるべく複数人で避難**するようにしてください。

危険な箇所は避けて、遠回りでも安全な道を歩いてください。

みんなで助け合って避難を

避難するときは、隣近所のお年寄りや障がいのある方に声をかけ、協力して避難しましょう。

動きやすい服装、複数人での避難

長靴やサンダルは危険です。運動靴をはき、両手が自由になるよう持ち物はリュックサックに入れて避難しましょう。

非常持出袋

災害時に必要な物は一人ひとり異なります。自分に必要なものを事前に準備しておきましょう。

斜面の近くは通らない

斜面は一瞬で崩れ落ちることがあるので、近づかないようにしましょう。

流れのある場所は近づかない

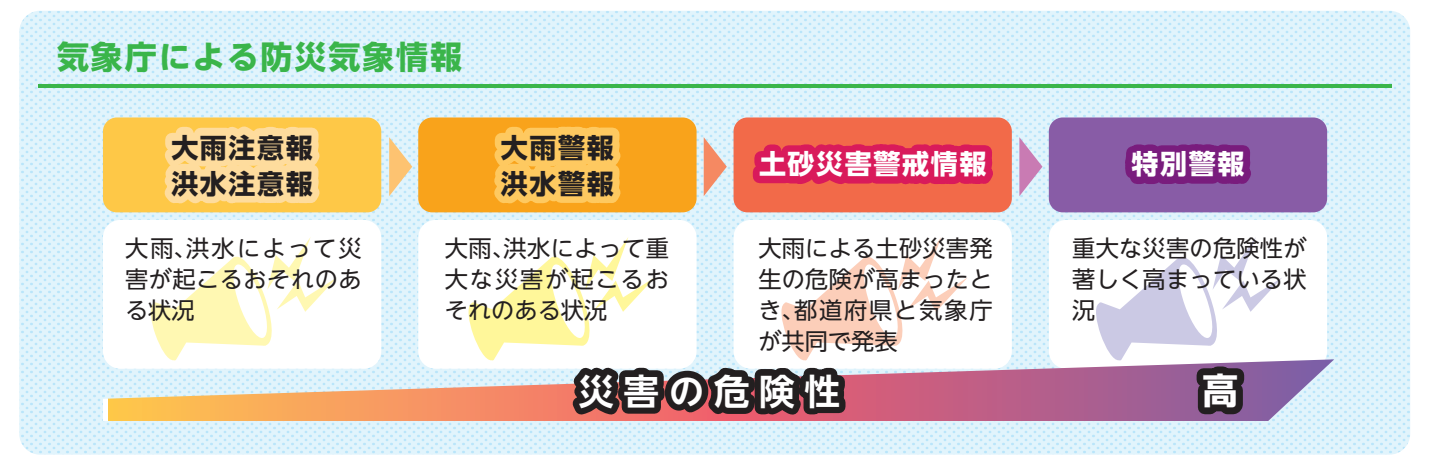
ゆるやかな流れでも、ひざの高さになると大人でも歩くのが困難です。小さな河川や流れのある場所に近づかないようにしましょう。

浸水している場所は注意が必要

浸水している場所は茶色く濁っており、水路と道路の境や側溝、ふたが開いているマンホールの穴は見えません。やむを得ず水の中を移動するときは、棒で足下を確認するなど、注意しながら移動しましょう。

●避難の判断に有効な情報

気象庁は災害に結びつくような激しい気象現象が予想される場合、テレビ・ラジオ・インターネット等を通じて気象警報・注意報などの防災気象情報を発表しています。避難行動の判断を支援するため、その危険度の高まりに応じて注意報、警報、特別警報と段階分けされています。

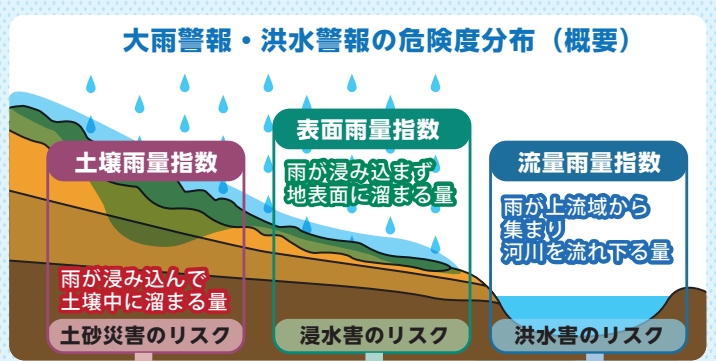


気象庁の危険度分布

降った雨は地中にしみ込んだり、地表面を流れるなどして川に集まります。大雨時には、雨は地中にしみ込んで土砂災害を発生させたり、地表面に溜まって浸水をもたらしたり、川に集まって増水することで、洪水を引き起こしたりします。

気象庁では、このような雨水の挙動を模式化し、**土壌雨量指数、表面雨量指数、流域雨量指数**として計算し、それぞれの災害リスクの高まりを**土砂災害、浸水害、洪水害**として「**危険度分布**」の提供を開始しました。

それぞれの危険度分布はインターネットの気象庁HPを通じて容易に閲覧できるので、災害発生の危険性が高まっている際には、ハザードマップと合わせて確認しましょう。



大雨警報（土砂災害）の危険度分布

<https://www.jma.go.jp/jp/doshamesh/>

どこで大雨による土砂災害発生の危険度が高まっているかを地図上で把握することができます。

大雨警報（浸水害）の危険度分布

<https://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/inund.html>

表面雨量指数の予測値及び実況値から、短時間強雨による浸水害発生の危険度を分布として表示しています。

洪水警報の危険度分布

<https://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/flood.html>

雨量予測に基づいた個々の中小河川において予測される洪水害発生の危険度の高まりを地図上で確認できます。

画像提供：気象庁 甲府地方気象台

●自発的な災害情報の入手

災害情報は気象情報をもとに、甲州市が避難の呼びかけをしますが、住民一人ひとりが積極的にテレビ・ラジオ等の報道機関や各種ホームページを通じて気象、避難情報を入手し、早めの避難に役立ててください。



●スマートフォンアプリを活用した情報入手

スマートフォンアプリの中には、様々な災害に関する情報をいち早くお知らせしてくれるアプリがあります。

NHKニュース 防災

NHKニュース・防災

・最新ニュースや災害情報をいち早くお届け。
・速報や災害・避難情報をプッシュ通知でも。
・マップ上で雨雲や台風、河川情報をチェック。
・災害時などにはライブの放送同時提供も。

Yahoo!防災速報

Yahoo!防災速報

・緊急地震速報や豪雨予報をはじめ、甲州市の災害情報をプッシュ通知でいち早くお知らせします。
・現在地と国内最大3地点に通知可能。移動中や旅行中も安心です。
・アプリ画面上で、現在地や登録した地域ごとに最新の災害情報のほか、災害の種類ごとの避難場所を確認できます。

●国・県・市の提供する情報

甲州市メール配信サービス

甲州市の防災行政放送を、携帯メールやパソコンで確認できる配信サービスです。行政情報の確認や、自分の身を守るための有効な手段となります。

登録手順
①登録用メールアドレス (t-koshu@sg-m.jp) に空メールを送信
②返信メールにあるURLへアクセス
③「仮登録完了のお知らせ」メールが届いたら、URLを選択して本登録サイトにアクセス
④利用者情報を登録し、本登録を済ませます

山梨県災害情報メール配信システム

<https://www.pref.yamanashi.jp/mobile/koucho/chumoku/dosya-mail.html>
大雨等の「気象警報・注意報」、「土砂災害警戒情報」および「地震情報」を携帯メールによりお届けします。

登録手順
①登録用メールアドレス (entry@sabo-mail.pref.yamanashi.jp) へ空メールを送信
②返信メールにあるURLへアクセス
③見たい情報や地域を選択し、登録を済ませます

山梨県土砂災害警戒情報 検索

<http://www3.pref.yamanashi.jp/dosya/>

国土交通省 川の防災情報 検索

<https://www.river.go.jp/>

山梨県雨量・水位情報 検索

<http://www3.pref.yamanashi.jp/sub/uryou/uryo001.asp>

国土交通省 防災情報提供センター 検索

<http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/>

気象庁 検索

<https://www.jma.go.jp>

甲府河川国道事務所ホームページ 検索

<https://www.ktr.mlit.go.jp/koufu/>

●災害用伝言ダイヤル

災害用伝言ダイヤルとは、災害発生時に安否情報などが声で確認できる「声の伝言板」です。全国の一般電話、携帯電話から利用することができます。

自分の無事を知らせるために 伝言を録音する

171 をダイヤル

▼ガイダンスが流れます▼

録音の場合 ①

▼ガイダンスが流れます▼

□□□□-□□-□□□□

自分の電話番号を市外局番から入力する

相手の無事を確認するために 伝言を再生する

171 をダイヤル

▼ガイダンスが流れます▼

再生の場合 ②

▼ガイダンスが流れます▼

□□□□-□□-□□□□

被災地の方の電話番号を市外局番から入力する